

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **産業経済局**

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会を実現するストック型社会への転換

担当局 / 総務担当課名	産業経済局	産業政策課
連絡先	582 - 2299	

21年度計画

-2-(1)-

施策名 **総合的な緑化・森林整備の実施**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	荒廃森林の整備を進め、総合的な森林整備を実施することで、森林の持つ水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全を図るとともに、経済林としての価値を高めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	低炭素社会を実現するストック型社会への転換

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度	計画	実績		年度	平成29年度
森林の持つ水源かん養や土砂災害防止といった公益的機能が長期にわたり発揮されるよう荒廃森林を整備します。指標としては、その整備面積を設定しました。	年度	37ha	計画	実績	30 ha	年度	1,000ha
	現状値			達成度	123.3 %	目標値	
	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費		34,431 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源		2,102 千円	9,300 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	森林の適正な維持管理は、森林の持つ水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全を図るとともに経済林としての価値を高めることにつながります。荒廃森林整備面積は、平成21年度の計画に対して、実績が上回っており、最終年度の目標達成に向け順調な推移だといえます。
今後の局施策の方向性	整備すべき面積を精査するとともに、森林整備の適期を見極め、今後、より効果的かつ効率的な施策の推進を図ります。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。
森林整備が低炭素化社会を実現するストック型社会への転換にどう関係するのかの説明が必要であると考えます。

施策名 総合的な緑化・森林整備の実施

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
市営林事業			16,555 千円	5,400 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			2,102 千円						
荒廃森林再生事業			17,876 千円	3,900 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	34,431 千円	9,300 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	2,102 千円		

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 A: 事業の見直しを図ることが可能 I: 休止・廃止を検討 U: 現状のまま進めることが適当 E: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	産業経済局	農林課
連絡先	582-2078	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会を実現するストック型社会への転換
	主要施策	総合的な緑化・森林整備の実施

関連計画	北九州市森林整備計画
事業期間	
経費区分	裁量の経費

-2-(1)-

事業名	市営林事業
-----	-------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市所有の人工林(スギ、ヒノキ)において、保育作業を実施し、森林の適正な維持管理につとめることにより、森林の持つ水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全を図るとともに、経済林としての価値を高めていきます。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	総合的な緑化・森林整備の実施	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	市営林整備面積 14.4ha	27.5ha	47.5ha	15ha	15ha			
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		市営林整備面積					計画	16 ha	年度	25年度
		市営林の適正な管理を行うため、間伐等を実施します。					実績	14 ha	内容	121ha
							達成度	87.8 %		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	16,555 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	5,400 千円
							うち一般財源	2,102 千円		
単年度計画	[図表: 単年度計画の推移]									

[事業の実施結果・進捗状況の確認]

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初16.4haの整備を行う予定でしたが、現地調査を行い、21年度整備すべき面積を精査した結果、14.4haの整備を行いました。
------	-------------------------------------	--

[事業の再検証]

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	人工林の適正な管理が森林の持つ水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全につながっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3 人工林の整備には、特殊な技術と経験が要求されますが、コストをできる限り削減するよう事業を精査し、また、国の補助金を活用しながら事業を実施し、公益的な機能を保全していきます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4 森林整備は、適切な時期に行う必要があり、適期に整備することが効率を高めることとなります。また、適正な整備を行わなければ、森林の持つ公益的機能や、経済林としての価値は低下するため、継続した取組みを行う必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切な のか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	市営林は市の財産として適切に管理していく必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	森林の持つ水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全のため、国や県の補助を活用しながら、市営林の整備を行っていきます。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	産業経済局	農林課
連絡先	582-2078	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会を実現するストック型社会への転換
	主要施策	総合的な緑化・森林整備の実施

関連計画	
事業期間	平成20年度～平成24年度(5年ごと見直し)
経費区分	裁量の経費

-2-(1)-

事業名	荒廃森林再生事業
-----	----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	長期にわたって手入れが行われずに放置され、荒廃した森林に対し、森林の持つ水源かん養や土砂災害防止といった公益的機能が長期にわたり発揮されるよう、福岡県の実施する森林環境税制度を活用し、荒廃森林の整備を実施していきます。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	総合的な緑化・森林整備の実施	成果	荒廃森林整備面積

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	37ha	100ha	100ha	100ha	-			
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		荒廃森林整備面積	計画					30 ha	年度	平成29年度
		荒廃した森林(私有林)の整備を行います。	実績					37 ha	内容	1000ha
			達成度					123.3 %	年度	
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費					17,876 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源					千円	3,900 千円	
	単年度計画	[図表: 単年度計画の推移]								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 当初30haの整備を行う予定でしたが、森林所有者に対し座談会を行うなど事業を推進した結果、37haの荒廃森林の整備を行いました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	人工林を適正に管理することは、森林の持つ水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全につながっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	福岡県森林環境税による事業で、事業費は県から全額補助されます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	福岡県森林環境税は平成20年度から始まった制度です。荒廃した森林を放置すると、水源かん養や土砂災害防止機能などの公益的機能が発揮されないため、可能な限り早急に整備する必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	県の補助金を活用して事業を実施していますが、事業を実施する要件として市が事業主体となることが定められていることから、市が事業を実施しています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	福岡県森林環境税は、県内の森林を整備する目的で県民税として上乗せされています。市内の森林整備のため、県補助金を活用して荒廃森林の整備を行い、水源かん養、土砂流出防備といった公益的機能の保全を図っていくこととしています。